

第2次静岡市茶どころ日本一計画をより実効性の高いものとするため、茶業情勢や社会環境の変化等を踏まえ、本計画の見直しを行う。

見直し時期：令和4年度・令和8年度

1 第2次計画について

「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」に基づき、静岡市のお茶に関する伝統、文化、産業を守り、静岡市を日本一の茶どころとして育て、次代に継承していくための施策などを定めたもの。

●計画期間 令和2年4月1日～令和13年3月31日

目標像

茶業の成長産業化
～収益力が高く、強く攻めの茶業への転換～

目標指標

静岡市の茶産出額：30億円（平成29年実績を維持）
「お茶のまち静岡市」を誇りに思う市民の割合：100%
首都圏における「お茶のまち静岡市」の想起率：90%

<3つの重点施策と目標指標>

1 静岡市型茶経営基盤整備の強化・推進	2 海外輸出力の強化と推進基盤の整備	3 国内消費の拡大・新たな需要の創出
静岡市が掲げる年間農業所得目標（500万円）を達成した認定農業者（茶）の割合 【目標】 25%（H30） → 55%（R12）	本市事業に係る「静岡市のお茶」の輸出量 【目標】 0.58t（H30） → 5.5t（R12）	1世帯あたりの緑茶購入数量 【目標】 2,333g/年（H30） → 2,600g/年（R12）

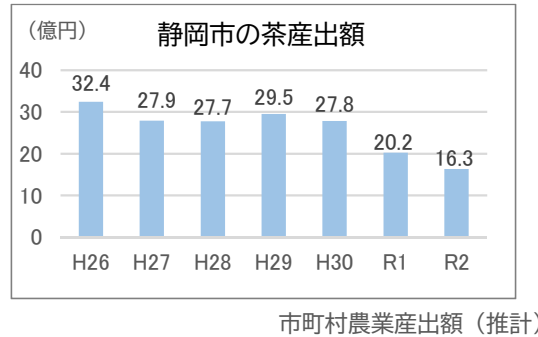
<基本的方策>

《産業》 人々の心を引きつけるお茶をつくるまち	《生活/文化》 お茶が生活・文化の一部となり心やすらぐまち	《都市/交流》 お茶を中心に交流の輪が広がるまち
1 人材育成 2 体制整備 3 販売力強化 4 商品・技術革新	1 普及促進 2 生活創造 3 価値向上	1 情報発信 2 認知度向上 3 魅力向上

2 静岡市の茶業の現状と課題

茶業の現状

◆静岡市の茶産出額



課題

(1) 厳しい茶業情勢

静岡市民の一世帯あたりの年間緑茶購入数量・支出金額は日本一（総務省家計調査）を維持している。

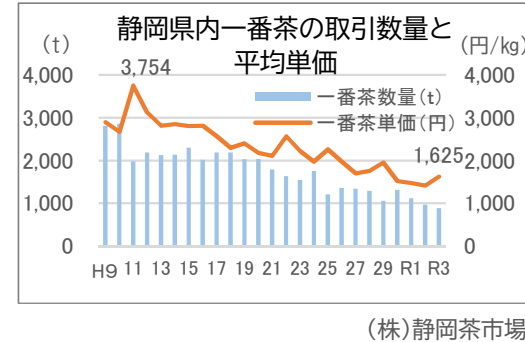
一方で、リーフ茶の需要は減少しており、茶の生産量や産出額の減少、茶価の低迷、生産者の高齢化や後継者不足による農家や茶園の減少、耕作放棄地の増加、海外情勢や円安の影響による資材や肥料の高騰など、本市の茶業は厳しい状況が続いている。

(2) 社会環境の変化

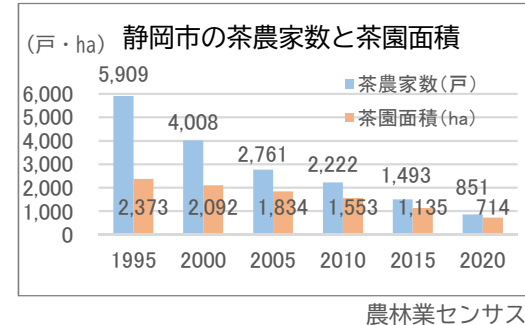
SDGs や環境を意識した持続可能な農業への移行、消費者の健康志向の高まり、生活様式や価値観の多様化など、茶業を取り巻く社会環境が変化してきている。

また、海外での健康志向の高まり等を背景に、日本全体の緑茶輸出量は増加している。

◆静岡県内の一番茶の取引数量と平均単価



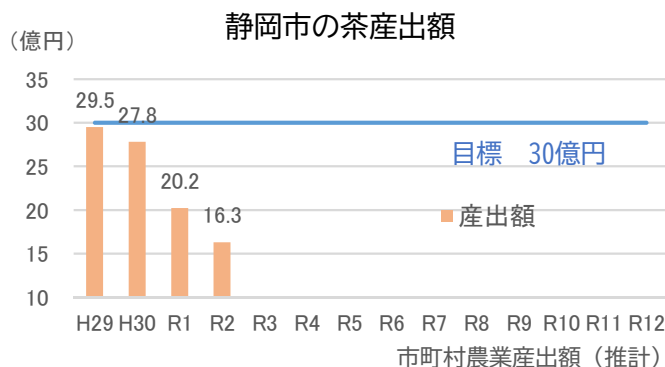
◆静岡市の茶農家数と茶園面積



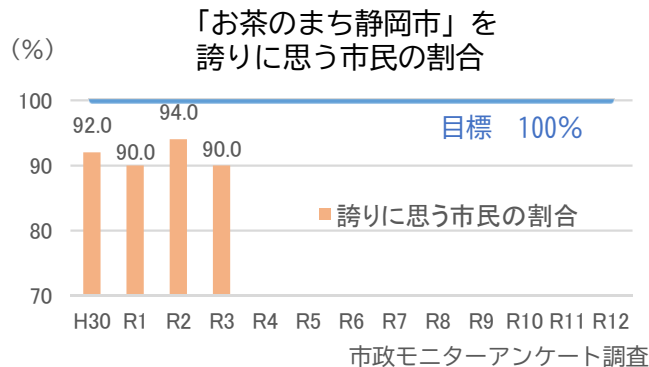
静岡市がお茶のまちであり続けるために、これまで育まれてきた静岡市のお茶文化を次代に引き継いでいくとともに、後継者や担い手の確保、社会環境や消費者ニーズに応じたお茶づくりを支援し、「静岡市のお茶」の価値を向上させ、新たな需要の創出、消費拡大につなげていく必要がある。

3 第2次計画の進捗状況

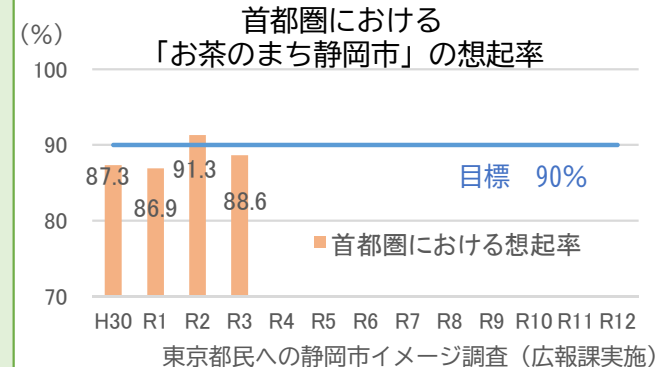
目標指標1



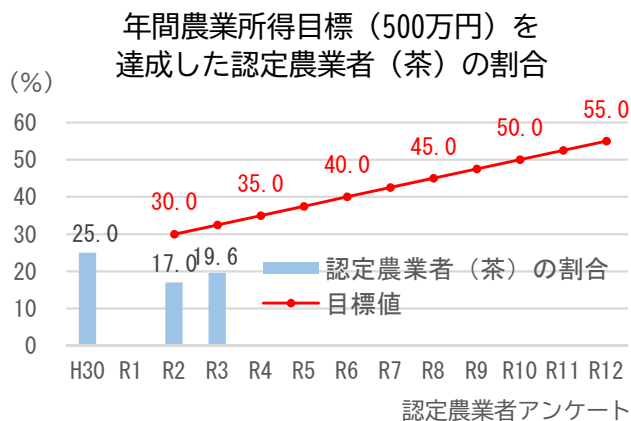
目標指標2



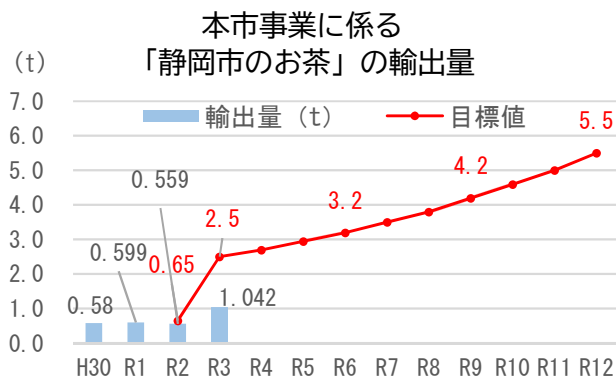
目標指標3



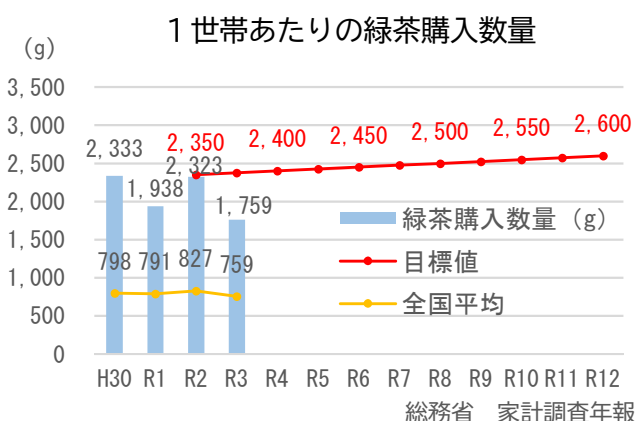
重点施策1 静岡市型茶経営基盤整備の強化・推進



重点施策2 海外輸出力の強化と推進基盤の整備



重点施策3 国内消費の拡大・新たな需要の創出



主な取組内容

①小規模基盤整備の推進



園内作業道の整備など茶園の効率的な管理支援など

②大規模基盤整備の推進



機械化による作業効率改善支援など

③人材や組織の育成



中心的経営体への経営診断による支援 など

主な取組内容

①海外輸出力の強化



海外販路拡大に取り組む茶業者への支援 など

②輸出環境・体制の整備



輸出サプライチェーンの整備 など

③海外輸出に 適応した生産 体制の整備



品質管理強化のための認証取得支援 など

主な取組内容

①普及・啓発



小学校でのお茶の美味しい入れ方教室 など

②消費拡大



静岡市の山のお茶PRイベント など

③シティプロモーション



首都圏でのプロモーション、お茶ツーリズムの推進 など

事業の実施状況

- ・主たる事業：事業対象が専らお茶に関わるもの
- ・関連事業：事業対象の一部がお茶に関わる、またはお茶に関する活動等に活用できるもの

(数字：事業数)

基本方向	基本的方策	具体的方策	主たる事業			関連事業		
			R2	R3	R4	R2	R3	R4
«産業» 人々の心を引きつける お茶をつくるまち	1 人材育成	今後の茶業を担う中心的経営体の育成	2	3	3	2	2	2
		集散地機能の強化						
		新規就農・参入者の育成・確保						
	2 体制整備	茶園の基盤整備の推進	9	11	11	10	9	9
		茶工場の再編と強化						
		山間地茶業の支援						
	3 販売力強化	認証取得等による品質管理の強化	7	8	7	2	2	2
		国内販路拡大推進						
		海外輸出力の強化						
	4 商品・技術革新	お茶を活かした産学連携の推進	2	2	2	1	1	1
		消費者ニーズに合う新商品・新技術の開発						
	«生活/文化» お茶が生活・文化の 一部となり心やすらぐ まち	1 普及促進	お茶の愛飲促進	16	18	17	9	9
お茶を飲み、触れ合う機会の創出								
2 生活創造		静岡市「お茶の日」の普及	6	6	6			
		飲食業連携とお茶を介した食習慣の提案						
		カフェ文化の創出・育成						
3 価値向上		お茶の効能の研究・活用	1	1	1			
«都市/交流» お茶を中心に交流の輪 が広がるまち	1 情報発信	J R 静岡駅における情報発信	1	1	1			
	2 認知度向上	産地間連携の推進と産地の情報発信力の強化	12	17	14	8	8	8
		市外・県外へのプロモーション						
		キャッチフレーズ等を活用した情報発信						
3 魅力向上	お茶ツーリズムの推進	2	2	2	1	1		
計			58	69	64	33	32	29

【事業評価】

茶どころ日本一施策として、令和2年度91事業（主たる事業：58事業、関連事業：33事業）、令和3年度101事業（主たる事業：69事業、関連事業：32事業）を実施した。

令和2年度は事業の多くが新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計画の80%以上実施（a評価）は57%にとどまり、計画の60%以上80%未満の実施（b評価）が27%であったが、令和3年度は感染症対策を講じた上での事業実施などにより、a評価は71%、b評価は11%という結果になった。



茶産出額や認定農業者の所得向上に向けて、**人材育成、商品・技術革新、価値向上、情報発信、魅力向上**において、取組みを強化・推進していく必要がある。

4 上位計画との関係

①第4次静岡市総合計画

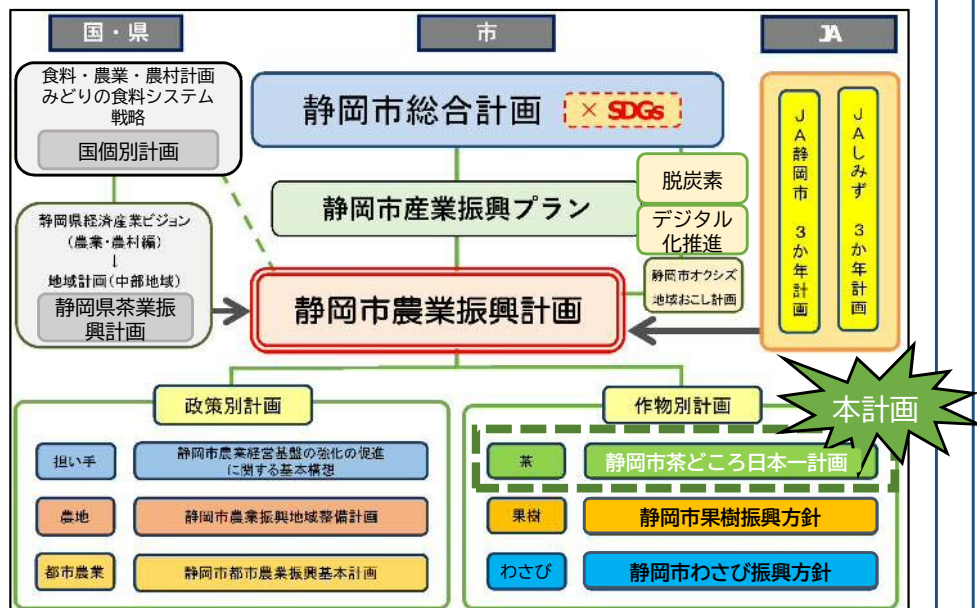
第4次総合計画における「SDGsの推進」、分野別計画における「多彩な資源を活かし、持続可能な農林水産業を営めるまちの実現」に向けた「人材・組織の育成」「生産基盤の構築」「静岡市ブランドの強化」、重点政策「（仮称）オクスズの森林文化を育てるまちの推進」との整合を図っていく。

本計画の関連するSDGsのゴール



②静岡市農業振興計画

静岡市農業振興計画で掲げる「農業所得の向上」、「担い手の確保」、令和5年度からの第2次農業振興計画で新たに取り組む「環境に配慮した農業の推進」との整合を図りながら、本計画でもこれらの取組みを強化していく。



5 茶どころ日本一に向けて

お茶を作る人、伝える人、楽しむ人が交流・連携し、お茶の生産、流通・消費まで循環することにより、新しいお茶の姿、お茶のある生活を創造し、本市が活力ある茶どころとして持続的に維持・発展していくため、5つの取組みをさらに推進していく。

①ブランド力の強化

静岡市のお茶は山間地の急峻な斜面を利用して作られた高品質な「山のお茶」であり、「お茶の匠」たちにより多様な「山のお茶」が作られている。お茶が作られる地理的特性やそれぞれの生産者の思いやストーリーが存在し、それらも「山のお茶」の魅力や価値となる。機械化や大量生産が難しい「山のお茶」ならではの希少性や産地の多様性を付加価値に、他産地との差別化、「山のお茶」のブランド力を強化し、国内・海外への販路を拡大するとともに、多様なお茶がある「お茶のまち静岡市」のブランド力向上も図っていく。

②地産地消の推進

市民が「山のお茶」の価値や魅力を理解し、様々な場面・機会に、市内で作られたお茶を飲むことが生産者の持続的な茶業の支援につながる。お茶を飲む機会、お茶に触れる機会を創出し、「山のお茶」の地産地消を推進していくことで、「静岡市のお茶」の消費拡大を図っていく。

③環境に配慮した農業の推進

消費者の価値観も多様化し、環境を意識したお茶が求められる中、環境負荷低減や有機農業に取り組む生産者を支援するとともに、こうした取組みや地産地消による環境負荷低減の効果など、持続的な茶業についての消費者意識の醸成を図っていく。

④コトづくり（体験等）の充実

静岡茶発祥の地としての歴史や文化、茶畑などの景観、お茶の匠や茶商の熟練の技術などを観光資源として活用し、お茶を五感で感じられる「コト（体験等）」「お茶と出会う場」の充実により、消費者と生産者や茶業関係者を結び付け、お茶の消費拡大や需要の創出、地域の観光振興、交流人口の拡大を図っていく。

⑤多様な連携

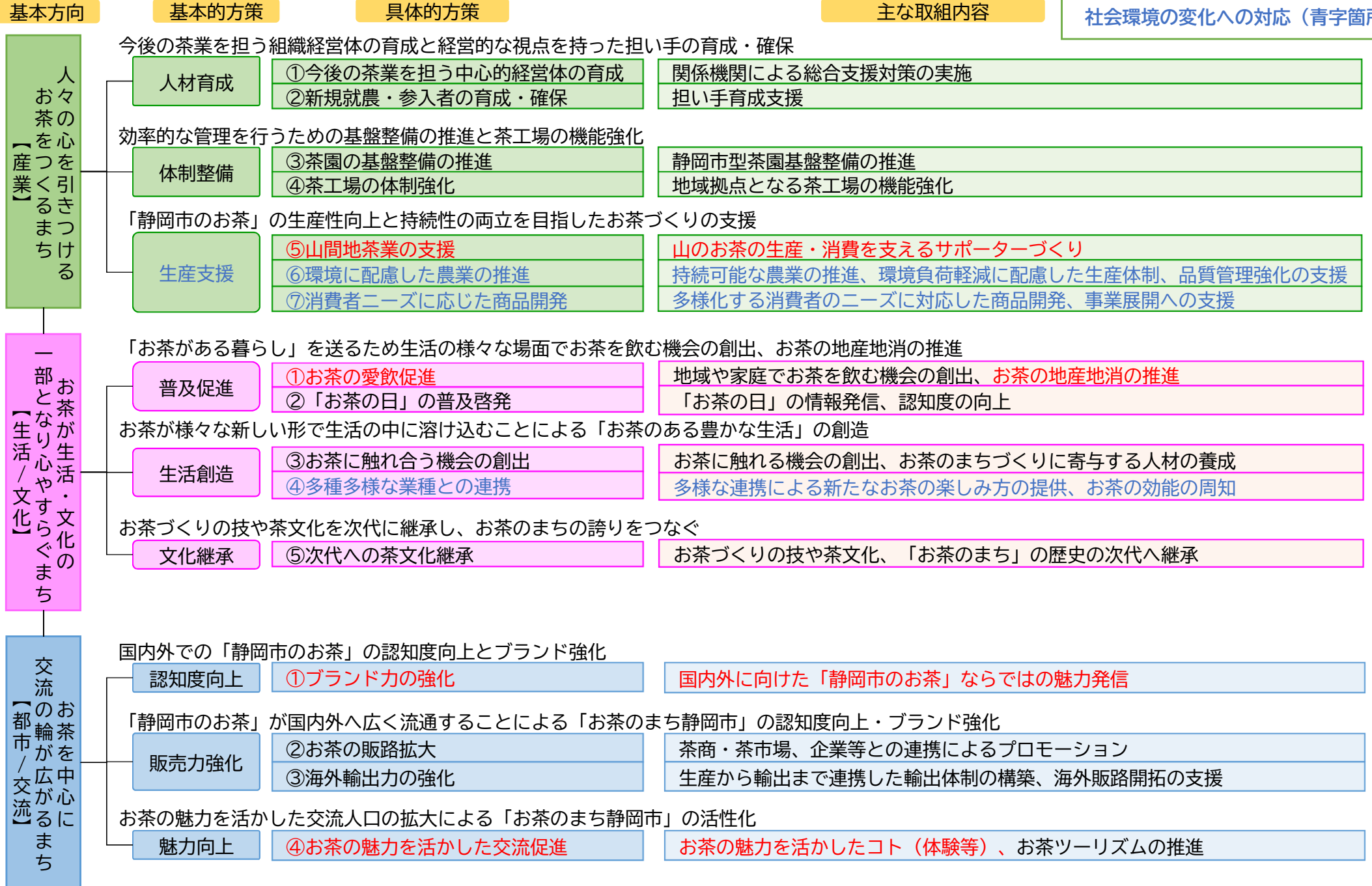
様々な分野の業種、静岡県、茶業関係団体との連携による新たなお茶の楽しみ方の提供、お茶の価値の向上により、お茶の消費拡大を図っていく。また、山のお茶の生産や消費を支える人材・サポーターの確保・育成、企業や団体との連携による農業体験や人材交流など、連携により多様で幅広い人材を活用していく。

6 第2次計画見直し 施策体系（案）

見直しにおける変更点

茶業情勢への対応（赤字箇所）

社会環境の変化への対応（青字箇所）



※令和4年度は目標指標、重点施策については見直しの対象としない。